

# 戦後の世界恐慌で崩壊した 国際協調体制



アメリカから波及した  
世界恐慌により、ヴェルサイユ、  
ワシントン両体制による  
国際協調が崩れはじめた。

## ニューヨークから 始まった世界恐慌

1920年代に空前の繁栄期を迎えたアメリカだったが、29年10月にニューヨーク証券取引所で株価が大暴落すると、銀行や工場が次々と閉鎖される大恐慌へと発展した。さらにアメリカの金融界が世界各国に投資していた資金を引き揚げたことなどから、アメリカの恐慌は世界へ波及した(世界恐慌)。とくにドイツは深刻な打撃を受け、アメリカは賠償金などの支払い一時停止(フーヴァー・モラトリアム)を実施したが、事態は好転しなかった。

## 世界恐慌からファシズムへ

1929年

### 世界恐慌

米ニューヨークでの株価大暴落を機に世界的な大不況に陥る。

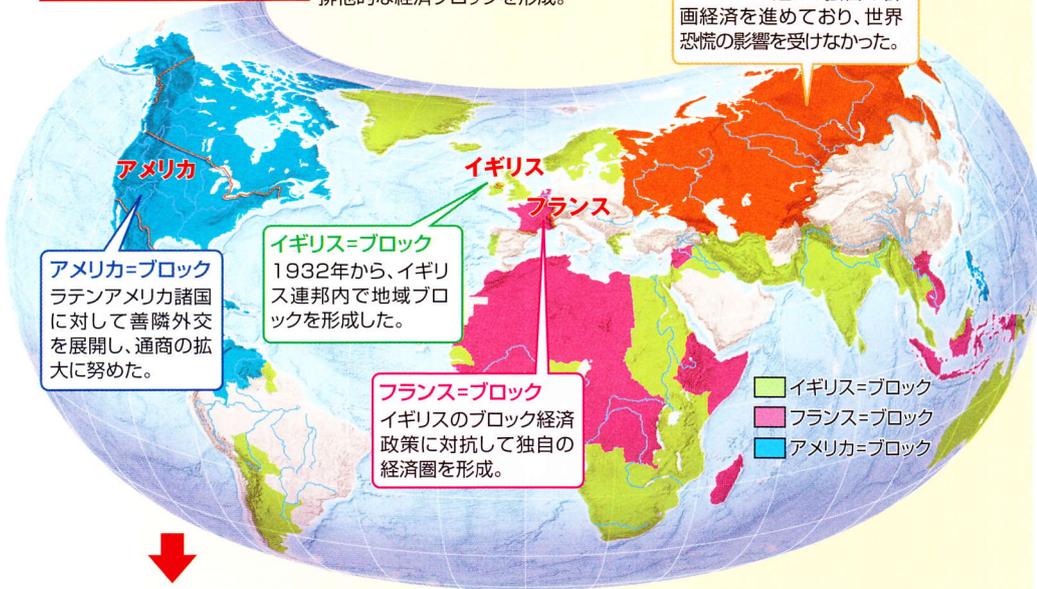
1932年～

### 英・仏・米のブロック経済

英・仏・米は、本国と植民地を中心に排他的な経済ブロックを形成。

ソ連

このころソ連は、独自の計画経済を進めており、世界恐慌の影響を受けなかった。



### ファシズムの台頭

日・独・伊は、経済基盤の弱さから行き詰まり、国内の不満が高まり、ファシズム(全体主義)が台頭。

1937年

### 日独伊三国防共協定の成立

国際的に孤立した日・独・伊の三国は、1936年にベルリン=ローマ枢軸を結成。同年、日本とドイツが日独防共協定を結び、翌37年にイタリアが加わり、日独伊三国防共協定が完成した。

### ドイツのナチス台頭

1933年、ナチスが一党独裁体制を確立し、国際連盟から脱退。34年、ヒトラーが総統に就任、35年には、再軍備宣言を出し、ヨーロッパの緊張が高まった。



ヒトラー

### イタリアのエチオピア併合

イタリアは、1926年からムッソリーニ率いるファシスタ党政権による一党独裁体制にあった。世界恐慌後の国内不満をそらすため、36年にエチオピアを併合。これに対して国際的な批判が高まり、イタリアは、国際連盟を脱退した。



ムッソリーニ

### 日本、満州国を建設

日本では、深刻な不況のなか、軍部や右翼が勢力を拡大。1932年、日本は満州国を建設するが、国連はこれを承認せず、33年に国際連盟を脱退。36年の二・二六事件をへて軍国主義体制へと進んでいった。

こうして、第一次世界大戦後にできあがったヴェルサイユ、ワシントンの両国際協調体制は世界恐慌によって完全に消え去り、各国は自国中心主義の政策を推し進めた。その結果、米・英・仏など広大な植民地をもつ国々と、ナチスが政権を握ったドイツ、ファシスタ党のイタリア、軍国主義が台頭した日本の3国との対立が深まり、世界は再び大戦へと突入することとなった。

Key Word

ニューデール

1933年に大統領に就任したフランクリン・ローズヴェルトによる一連の経済改革。全国産業振興法(NIRA)や農業調整法(AAA)で生産調整をしたほか、テネシー川流域開発公社(TVA)などの公共事業で失業対策を講じた。国家が経済に介入して景気回復を図る修正資本主義政策の端緒となり、のちにケインズによって理論づけられた。